

陸奥新報75周年特集



県民の健康づくりにおいて今やキーワードとして浸透した「短命県返上」。その中心で旗振り役を担っているのが「弘前大学COI（センター・オブ・イノベーション）」だ。2013年度に文部科学省の革

新的イノベーション創出プログラムに採択され、県民の健康に対する意識改革のみならず、健康づくりを通じた地域経済や産業の活性化に貢献してきた。9年間ある採択期間を経て21年度は最終年の節

目を迎えたが、健康寿命延伸を目指す姿勢は、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標「SDGs」に合致し、発展途上国の健康問題にも貢献できる可能性を秘めている。（石田紅子）

短命県返上から国際貢献へ

1000人のデータ蓄積

旧赤松町・現弘前市岩木地区の平均寿命アップを目標に掲げて2000年に始まった

核は岩木健康増進プロジェクト

「岩木健康増進プロジェクト」は、住約1000人の健康データを毎年蓄積してビッグデータ解析を行い、疾病の予防・予防医療のつなげる研究だ。その特徴は検査項目の膨大さ、内科系検診のみならず、体力や精神面、生活習慣、口腔など増え続け、今や3000にも及ぶ項目を見ないビッグデータが出来上がった。この研究が求心力となり、国内の有名企業がヘルスケア商品や技術の開発に

弘大には現在、15の共同研究講座が立ち上がっている。新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底し行われた岩木健診は2000年9月



啓発型健診を開発

岩木健康増進プロジェクトで得た知見から、最小限の項目で全身の健康チェックを行う「QOL（クオリティ・オブ・ライフ）健診」を開発した。健診は、受診者のヘルスリテラシー（健康に対する知識）を十分に向上させることができ、健康行動変容につながる。そこで健診後すぐに結果を分析し、受診者に健康指導を行うことで行動変容につながる啓発型健診として開発した。企業や生産者などの職場、地方、開発途上国の生産者、開病予防策として海外展開の可能性も探っている。

QOL健診でヘルスリテラシー向上へ



センター・オブ・イノベーション

産学官民が連携

弘大COIは健康ビッグデータをハブに健康寿命向上に向けて産学官民が連携する姿勢も大きな特徴。2019年3月の第1回日本オープンイノベーション大賞の最高賞・内閣府賞を受賞した。

イノベーションアワード3冠、国際的評価も

第1回日本オープンイノベーション大賞内閣府賞、第3回イノベーション大賞の最高賞「2019年3月5日（弘大COI提供）」皮切りに、同年11月には第4回イノベーション大賞総務大臣賞、2020年9月にはイノベーションアワード2020の最高賞・文部科学大臣賞を立て続けに受賞し、3冠を達成。経済効果も地域産業振興の面でも評価を受け、また、同年7月に受賞した第1回アジア健康寿命イノベーション賞（首相官邸賞）も受賞した。また、同賞の審査員も、岩木健康増進プロジェクトを中心とした取り組みが国際連合の委員会の報告書に掲載、21年5月の会議で発表された。国際的な評価を受けたのは初めてで、取り組みを世界で設立するための新たな一歩を踏み出した。

中路拠点長

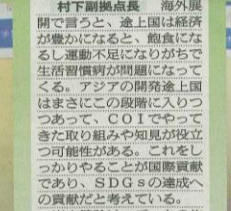
弘前大学COIが今後を描く展開で、中路重之拠点長(70)と、村下公一拠点長(53)に聞いた。



今後の展開を見据え「地方大学の存在価値を高めるチャンスが来ている」と力を込める中路拠点長

将来に描く展開図

作っていきたい。そのためよりどころが岩木健康増進プロジェクトで蓄積したビッグデータ。生誕にわたるQOL健診のデータをとりながら、その人がどうすれば一番健康になるのか、助言を得られるようなシステムの中で生誕を送れる世の中にするのを弘大COIに、可能性を感じている。



「世界で唯一無二のビッグデータが出来上がったのは岩木地区の住民の協力があったこそ」と話す村下副拠点長

村下副拠点長

日々「Iiwaki Study」として世界に知れ渡るようになるといい。弘前市は人口当たりの医療機関が多い。医療が集まっている弘前の地域特性を生かして、政府が掲げる「Society5.0」のように弘前に暮らしているだけで自然と健康に導かれるような環境、世界観ができれば、医療、健康の世界でも「弘前（HIROSAKI）」というブランドが世界から注目される可能性を十分に秘めている。



「世界で唯一無二のビッグデータが出来上がったのは岩木地区の住民の協力があったこそ」と話す村下副拠点長

「生涯PHR」を目指す

岩木健診は、データの集積は長く続けられ続けているが意義と価値を持つ。これからも続けていき、いつの

短命県返上

上は初期の目標をある程度達成できた。今後は世界に広げる、日本の社会保障の制度に切り込んでいく、そらいったところまで持って行きたい。基礎はできたのでCOIを拠点に、赤ちゃんから高齢者まで常に自分の健康状態を把握できる「生涯PHR（パーソナル・ヘルス・レコード）」を